

**事業所名** グループホーム うらら  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成21年 3月31日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 高等学校非常勤講師、訪問指導員  
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター、健康生きがいづくりアドバイザー  
B:現職 理学療法士  
資格・経験 障害児施設勤務20年、理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

**講評**

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・JR茶屋町駅や幹線道路に近く、倉敷市街地や岡山市への交通のアクセスが良い場所に位置する。周辺は、民家や田園が広がる静かな環境であり、スーパーマーケットなどの商業施設にも近く、生活しやすい環境である。
- ・法人内に、現在6つのグループホームを有している。法人内職員の認知症ケアに対する経験は豊富で、経験から得られたノウハウを生かしたサービスを提供している。新しく設立したグループホームには、経験の豊かな管理者を配置し、スムーズな運営を図っている。グループホーム同士で情報交換をしながらも、各グループホームが独自性をもって入居者の生活を支援している。「グループホームうらら」は、設立から8年目を迎えようとしており、職員の笑顔や明るさと優しさにより、入居者は安心と安らぎのある生活を送ることができている。家族や入居者のサービスに対する満足度は高い。
- ・地域との関わりを大切にしており、グループホームで開催されるイベントには地域の子供たちにも参加を呼びかけている。通りがかりにも、子ども達が気楽に寄って行けるような場所となっている。また、町内の清掃、廃品回収にも協力し、地域の方からも喜ばれるような良い関係が保たれている。
- ・入居者一人ひとりが、明るく楽しく暮らしていけることを支援している。閉じこもりにならないように、外出や様々なイベントを企画している。入居者の要介護度は年を重ねるごとに上がりつつあるが、入居者一人ひとりができることを見極め、力づけたり見守ったりしながら、それぞれの持てる力が生かされるような支援をしている。入居者の一人が歌を口ずさむと他の入居者がそれに合わせて合唱するなど、入居者同士も楽しく生活できている様子である。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

毎月1回全体会議を開催していたが、今年度は定期的な開催が滞っている。今後は定期的に開催し、職員同士が活発に意見交換をしながら合意を図っていかれることを期待する。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b> ・家庭的な環境のもとで、入居者と職員が信頼関係を築きながら、安心と尊厳のある生活を送れるように支援することをめざしている。 ・入居者の生活歴を把握し、一人ひとりが送ってきた生活スタイルが継続できるよ支援している。また、入居者一人ひとりのできること、できないことを見極め、励ましたり応援したりしながら日常の生活の中で喜びを引き出し、自信や楽しみを持って生活できるような暮らしをめざしている。		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b> ・入居して間のない頃には、特に目配りや声かけを頻回にして、一人になってさみしさを感じないように配慮している。皆で一緒に過ごす時間を作ったり、一人でゆっくり過ごせる時間も作るなど、入居者の性格や状態を見極めながら支援している。 ・外出の願望が強い入居者に対しては、周辺の散歩や買い物など頻回に出かける機会を作ったり、家族の訪問時にも外出の機会を作ってもらうなどの協力を得ている。 ・いきなり大きな声で話しかけてびっくりさせたり、急がしたりしないよう、声のトーンに気をつけている。話をする時には、ゆっくりと思いを引き出すように配慮している。		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b> ・入居者一人ひとりの生活歴を知り、お好み焼屋をしていた方には調理を、主婦をしてきた方には調理・洗濯・掃除を、畑をしてきた方には水やりや草取りをと、可能な限り持てる力が発揮できるように支援している。 ・入居者のプライバシーの保護に配慮し、記録簿は事務所内で適切に保管している。入居者の個人的なこと、特に病気のことなどを話す時には他者に聞こえないように話し、面会簿はカード形式にして記入したらケースに入れてもらうなどの配慮をしている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b> ・自主評価は、職員全員で行い、日常のケアの見直しの機会とし、サービスの質の向上に役立てている。 ・事故やヒヤリハット報告書があり、事故が発生した場合には、みんなで対策を検討し合っている。また、他のグループホームも含めて事故やヒヤリハットが多い項目については、発生予防や再発防止に向けて話し合いをしている。 ・法人内で、3ヶ月に1回勉強会が開催されており、職員も参加している。外部の研修にも参加しており、報告をし合っている。介護支援専門員や介護福祉士を目指す職員に対しては、法人全体で勉強会を開催するなど、職員の取り組みを支援している。		